

平成 28 年度日本植物病理学会関東部会プログラム

神奈川県横浜市 横浜国立大学教育文化ホール（平成 28 年 9 月 29 日～30 日）

講演 10 分（予鈴 8 分）、討論 2 分

9 月 29 日（木）午前

10:25 開会挨拶

座長：石賀康博

1. 10:30 ○田中景子¹・阿部桃子¹・柴田詩織²・大澤友紀子²・小倉里江子²・尾形信一²・平塚和之²
(¹横浜国大理工・²横浜国大院環境情報)
病害応答性遺伝子プロモーターを利用した新規抵抗性誘導剤の探索
2. 10:42 ○根岸紘生¹・石田浩高²・小倉里江子²・平塚和之²
(¹横浜国大理工・²横浜国大院環境情報)
発光モニタリング系を利用したシロイヌナズナVSP1遺伝子プロモーター誘導化合物の探索と特徴付け
3. 10:54 ○北畑信隆^{1,2}・羽山大介¹・筒井友和³・花俣繁^{1,2}・海老根一生³・来須孝光^{2,4}・上田貴志³・朽津和幸^{1,2}
(¹東京理科大理工・²東京理科大イメージングフロンティア・³基生研・⁴東京工科大応用生物)
病原体に対する植物の抵抗性を向上させる化合物のハイスループットスクリーニングと作用機構の解析
4. 11:06 ○吉田亜祐美¹・北畑信隆^{1,2}・平塚和之³・佐藤静香¹・斉藤優歩¹・吉川岳史¹・中野正貴¹・来須孝光^{2,4}・浅見忠男⁵・朽津和幸^{1,2}
(¹東京理科大理工・²東京理科大イメージング・³横浜国大院環境情報・⁴東京工科大応用生物・⁵東大院農学生命)
新規抵抗性誘導剤候補化合物の作用機構の解析

座長：濱本 宏

5. 11:18 ○三塚大貴¹・来須孝光^{2,3}・八木智華子¹・別役重之⁴・筒井友和⁵・上田貴志⁵・祢宜淳太郎⁶・射場 厚⁶・北畑信隆^{1,2}・朽津和幸^{1,2}
(¹東京理科大理工・²東京理科大イメージング・³東京工科大応用生物・⁴筑波大生命環境系・⁵基生研・⁶九州大院理)
植物の感染防御応答・べと病菌に対する耐病性における S 型陰イオンチャネルの役割の解析
6. 11:30 石賀貴子¹・秋田智美²・○石賀康博¹
(¹筑波大生命環境・²筑波大生物資源)
Pseudomonas syringae pv. *tomato* DC3000 のシグマ因子 AlgU は本菌の病原力に貢献する

7. 11:42 ○宮本拓也¹・三村洋一²・鹿島哲郎¹

(¹茨城農総セ園研・²茨城坂東普セ)

ネギ黒腐菌核病に対するフルジオキシニル水和剤の防除効果

8. 11:54 ○佐藤 衛・福田直子

(農研機構野菜花き研)

水耕栽培におけるトルコギキョウ立枯病の農薬による防除

9. 12:06 ○山本賢一郎・石川成寿

(法政大植物医科)

イネばか苗病(*Fusarium fujikuroi*)およびイネもみ枯細菌病(*Burkholderia glumae*)に対する3種拮抗糸状菌の防除効果

<昼休み> 12:20~13:40

関東部会役員会 (教育文化ホール小会議室, 12:20-13:20)

9月29日(木) 午後

13:40~14:30

特別講演

座長：平塚和之

「神奈川県における病害研究-防除対策技術の開発」

(神奈川県農業技術センター 植草 秀敏 氏)

<休憩> 14:30~14:50

座長：北畑信隆

10. 15:00 ○一色淳憲

(東洋製罐 GHD 綜研)

DNA マイクロアレイを用いた植物病害診断の応用研究(4)

11. 15:12 ○濱本 宏¹・沓間雄一²・前田耕二²・世並正淑²

(¹法政大植物医科・²日伸理化)

植物病理サンプルの微量破碎と遠心分離回収

12. 15:24 ○永田俊文・窪田昌春

(農研機構 野花研)

キュウリ炭疽病菌のPCRによる定量検出法の確立

座長：鈴木 匡

13. 15:36 ○高島永太¹・佐々木信光²・丹生谷博²

(¹農工大院農・²農工大遺伝子)

トマトモザイクウイルス感染はタバコのレモリン膜タンパク質 NtREM の細胞内局在を変化させる

1 4. 15:48 ○村上理都子¹・河野伸二²

(¹生物研・²八重山農改)

ピーマン葉脈黄化ウイルスのシマトウガラシからの検出

1 5. 16:00 ○鯉沼宏章・二條貴通・岩渕 望・吉田哲也・桂馬拓也・岡野夕香里・前島健作・山次康幸・難波成任

(東大院農)

チェリーAウイルスの全ゲノム解読

1 6. 16:12 ○岩渕 望・吉田哲也・遊佐 礼・西田菫子・丹野和幸・桂馬拓也・二條貴通・山次康幸・難波成任

(東大院農)

アジアで初めて検出された *alternanthera mosaic virus* の全ゲノム解析

1 7. 16:24 ○王 蔚芹¹・高山 碧¹・西川尚志¹・木村重光²・梁 宝成³・野呂太一³・夏秋知英¹

(¹宇都宮大農・²京都府農技セ生資セ・³京都微研)

スイカモザイクウイルス弱毒株の全塩基配列決定とHC-Proの解析

17:00～19:30 懇親会 大学会館3階「ポルティ」

9月30日(金) 午前

座長：小倉里江子

1 8. 10:30 ○戸倉由季・キム オッキョン・根岸寛光・篠原弘亮

(東京農大農)

Herbaspirillum sp. 022S4-11 株水和剤のイネもみ枯細菌病(苗腐敗症)に対する防除効果

1 9. 10:42 ○高田郁哉¹・丸 章彦²・伊山公二²・キム オッキョン¹・根岸寛光¹・篠原弘亮¹

(¹東京農大農・²ゾエティス・ジャパン(株))

ウメ栽培圃場におけるストレプトマイシン耐性ウメかきよう病菌(*Pseudomonas syringae* pv. *morsprunorum*) の分離頻度

2 0. 10:54 ○金子洋平・福田 寛

(千葉農林総研)

ナシ黒星病における休眠期から鱗片脱落期にかけての殺菌剤散布適期

座長：大里修一

2 1. 11:06 ○木村 愛¹・林夏乃子¹・矢島里香¹・芦澤武人²・井村喜之¹・藤田佳克¹

(¹日大生物資源・²農研機構中央農研)

イネ稲こうじ病菌の分生子発芽に対するアミノ酸の影響

- 2 2. 11:18 ○浅井秀太¹・Cevik V²・Furzer OJ²・Ishaque N²・白須 賢¹・Jones JDG²
(¹ 理化学研究所 環境資源科学研究センター・² The Sainsbury Laboratory, UK)
抵抗性遺伝子 RPP4 により認識されるべと病菌エフェクターの遺伝子型・表現型の
非相関
- 2 3. 11:30 ○別役重之¹・浜田紗稀²・加藤新平³・馬 笛超²・石賀貴子¹・竹林裕美子⁴・
榊原 均⁴・野村暢彦¹・福田裕穂²
(¹筑波大生命環境系・²東大院理・³信州大院農・⁴理研 CSRS)
PTI における植物免疫反応場形成機構の解析
- 2 4. 11:42 ○丸山 望¹・清川達則¹・石賀貴子²・石賀康博²・別役重之²・尾花 望²・
一瀬勇規³・野村暢彦²
(¹筑波大院生命環境・²筑波大生命環境系・³岡山大院環境生命)
Pseudomonas syringae pv. *tabaci* 病原力関連遺伝子の網羅的解析と感染機構の
可視化

<昼休み> 11:54~13:20

9 月 30 日 (金) 午後

座長：佐藤豊三

- 2 5. 13:32 ○野澤俊介¹・内川敬介²・菅 康弘²・渡辺京子^{1,3}
(¹玉川大大学院農・²長崎農技セ・³玉川大菌学応用)
長崎県で発生したピワ灰斑病菌の同定 (病原追加)
- 2 6. 13:44 ○山中智博¹・小野 剛²・升屋勇人³・柴田 葵¹・堀江博道¹・廣岡裕吏¹
(¹法政大植物医科・²東京小笠原亜熱帯農セ・³森林総研東北支所)
Colletotrichum sp.によるヒメツバキ炭疽病 (新称)
- 2 7. 13:56 ○横澤志織¹・岡沢克彦¹・木村祐介²・江口直樹¹
(¹長野果試・²協友アグリ(株))
Podosphaera leucotricha によるモモうどんこ病の発生 (病原追加)

座長：廣岡裕吏

- 2 8. 13:08 ○牧野 華¹・前田 秀樹¹・佐藤 衛²
(¹農研機構種苗管理セ・²農研機構野菜花き研)
カンパニュラ・グロメラタ (リンドウザキカンパニュラ) (*Campanula glomerata*)
に発生した
さび病 (新称)
- 2 9. 14:20 ○安次富厚¹・澤岬哲也²・佐藤豊三³・大城 篤¹・山城麻希¹
(¹沖縄農研セ・²沖縄農研セ名護・³農研機構遺伝資源セ)
*Stomiopeltis*類似属の1種によるマンゴーすす点病 (新称)
- 3 0. 14:32 ○佐藤豊三¹・森脇丈治²・青木孝之¹・根本 博¹
(¹農研機構遺伝資源セ・²農研機構九沖農研)
Colletotrichum gloeosporioides 種複合体所属菌株の分子再同定に基づく複数作物炭
疽病の病原学名変更

座長：尾形信一

- 3 1. 14:44 ○高橋優実¹・内田景子²・岡田 亮¹・福原敏行¹・有江 力¹・寺岡 徹¹・
植松清次³・森山裕充¹
(¹農工大院農・²農工大院連農・³千葉農林総研暖地)
エンドルナウイルスに感染したアスパラガス疫病菌からのウイルスフリー化株作出
の試み
- 3 2. 14:56 ○鮎川 侑¹・小松 健²・有江 力²
(¹農工大院連農・²農工大院農)
キャベツ萎黄病菌 *Fusarium oxysporum* f. sp. *conglutinans* の 2.0 および 2.2 Mb の小型染
色体喪失株は生育速度と病原性が低下する
- 3 3. 15:08 ○富田成美¹・小川哲央¹・荒添貴之²・桑田 茂¹・草野好司¹・大里修一¹
(¹明治大農・²神戸大院工)
イネいもち病菌の相同組換え修復に関与する SRS2 複合体の相互作用領域
- 3 4. 15:20 ○太田光祐・富田健一・桑田 茂・大里修一
(明治大農)
膜透過性ペプチド Penetratin とイネいもち病菌へのタンパク質の直接導入法
-

15:32 閉会挨拶